

Conference Report

「Shikata Discussion 2011」報告

西 直哉

電気分析化学の国際シンポジウム「Shikata Discussion 2011」は、5/27（金）から 5/29（日）までの 3 日間、淡路夢舞台国際会議場にて開催された。

チェコでは、J. Heyrovský のノーベル化学賞受賞を記念して、「Heyrovský Discussion」が連綿と 40 回以上にわたって開催されている。一方、ポーラログラフを考案された志方益三先生のお名前のシンポジウムが日本にないのは、バランスを欠く。このような考えのもと、垣内隆先生により本国際シンポジウムは「Shikata Discussion 2011」と命名された。筆者はその事務局長としてその準備および運営に携わらせていただいた。

「Shikata Discussion 2011」の参加者は 82 名であった。国内外の内訳は、国内からの参加者 56 名、国外からは 26 名（12 カ国）である。

参加者をすべて列挙することはできないが、その一部を以下に記す（敬称略）。

- Christian Amatore（フランス、フランス高等師範学校、フランス科学技術アカデミー会員、国際電気化学会副会長）
- Hasuck Kim（韓国、大邱慶北科学技術研究院、国際電気化学会次期会長）
- Zdeněk Samec（チェコ、ヘイロフスキー研究所所長）
- Erkang Wang（中国、長春応用化学研究所元所長、中国化学アカデミー会員、志方先生の長春における最後の弟子）
- Shaojun Dong（中国、長春応用化学研究所、志方先生の長春における最後の弟子）
- 西原 寛（東京大学教授、国際電気化学会副会長）
- 谷口 功（熊本大学学長）
- 池田篤治（京都大学名誉教授、志方先生が京都大学農学部で立ち上げた研究室の前教授）
- 加納健司（京都大学教授、志方先生が京都大学農学部に立ち上げた研究室の現教授）

国外からの参加者の大半は、志方ディスカッション 2011 の前に京都で開催されていた分析化学の国際会議「International Congress of Analytical Science 2011」にも参加していた。そこで、前日の 5/26（木）に京都国際会議場から京都駅を経由して淡路夢舞台までのチャーターバスを用意した。30 名がこれを利用し、

前日に夢舞台国際会議場に到着した。

会議は初日の午後からであり、午前中には、参加者は、ホテル（Westin）の部屋で仕事をしたり、国際会議場周辺をジョギングしたり、思い思いの時間を過ごしたようである。

午後からの会議では、まず Opening として「Shikata Discussion 2011」組織委員会の代表である垣内 隆先生から趣旨の説明および志方先生の研究について紹介があった。続いてオーラルセッションが開催された。3 日間にわたるオーラルセッションで討議されたのは、以下のとおり、現在、電気分析化学の分野で最新的话题となっている題目である。

5/27（金）午後 : バイオ電気化学

5/28（土）午前 : 光電気化学

5/28（土）午後 1 : ナノ電極・ナノ構造の電気化学

5/28（土）午後 2 : 機能性修飾電極

5/29（日）午前 : 液液界面電気化学

これらのオーラルセッションで、合計でキーンノートレクチャー20 件および一般講演 16 件の発表があった。キーンノートレクチャーでは、電気分析化学分野のトップクラスの研究者から問題点・注目点に焦点を絞った発表があり、それにつづく十分な時間の討論が行われた（講演全体 30 分のうち、発表 20 分、討論 10 分）。一般講演は主に国内外の中堅・若手の研究者により行われ、講演後の討論時間にトップクラスの研究者らと激しく討論する光景も見られた。

ポスターセッションは初日（5/27）の夕方に行われ、38 件の発表があった。発表者は主に若手研究者や大学院生であり、一流の研究者に向かって英語で発表し討論した。

その後のレセプションでは、材料に、淡路島の玉ねぎ、淡路牛、淡路島周辺で捕れた海の幸を用いた料理が参加者に好評であった。



アンフィシアターでのオーラルセッション：垣内 隆先生の Opening Talk



レセプションホールでのポスターセッション

二日目 (5/28) の上述のオーラルセッションの後に開かれたバンケットでは、志方先生の長春における最後の弟子である Erkang Wang 先生が志方先生の思い出をプロジェクターで写真をスクリーンに映しながら語られた。その後、学生ポスター賞授賞式があり、優秀なポスター発表をした学生 5 名 (Mahmud Ashtewi, Tomohiro Higashi, Irdhawati, Shintaro Kubota, Yasuhiro Naka) が賞状を垣内 隆先生から手渡された。

初日のレセプション、二日目のバンケット、それらに続いて会議室を貸し切って行われた懇親会では、国内外の研究者が各々の研究内容はもちろんのこと、国内外の大学・研究機関・学会の状況などについて、じっくり話し合う時間が持てたように感じる。

三日目 (5/29) も上述のオーラルセッションが行われ、最後に closing として垣内 隆先生が挨拶され、閉会した。季節外れの台風二号が関西に接近するなか、参加者は帰路についた。参加者のうち 19 名が、エクスカーションとして、予定していた南海フェリーを避けてチャーターバスに乗り、和歌山に向かった。

会議の後半に悪天候が続いたことも含め、参加者のみなさんにはいろいろとご心配おかけしました。至らなかった点があったかと思いますがどうかご容赦ください。運営に携わった者として本国際シンポジウムが参加者の皆さんにとって実り多いものであったなら幸いです。



バンケットにて 1 :
Christian Amatore 先生のスピーチ



バンケットにて 2 : Erkang Wang 先生
による「志方先生の思い出」スピーチ



バンケットにて 3 : 学生ポスター賞の
受賞者 左から東智弘氏、仲泰嘉氏、
窪田慎太郎氏、Mahmud Ashtewi 氏、
樋上照男先生 (Irdhawati 氏の代理)。

にし なおや, 京都大学大学院工学研究科

Naoya Nishi

Graduate School of Engineering,

Kyoto University



全体写真